

## 飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

### 第 405 回 空気が読める人、読めない人

2011.2.20

相手が急に怒り、その理由が分からない時がある  
おしゃべり大好きで、とにかく話を聞いてほしい  
人の都合や立場などが気にならないし、あまり気にしない  
場所、時間を気にせず、マイペースに振る舞うことが多い  
年齢に関係なく子供扱いされることがある  
天然(ボケ)と、よく言われる  
言っではいけないことが自分で判断できない(人に指摘されて気づく)

こんな経験に心当たりがある方、あなたはK Y (空気読めない) 人間予備軍かもしれない。  
空気が読める人というのは、  
表情や声のトーンなどから相手の気持ちを察することができる人のこと。  
場の空気が読める力というのは、身につけたいと自分が強く思わなければその力は備わらない。最初から誰にでも備わっているものではないし、逆に言えば、身に付けたいと思えば練習や訓練で身につくものである。

例えば赤ちゃんを育てるお母さん。  
言葉で自分の状態を説明できない赤ちゃんを見て、「そろそろお腹がすいてきたかな」と、判断する。赤ちゃんに強い関心を持っているからこそ、赤ちゃんの訴えが分かってくる。赤ちゃんを理解する力が身についてくるものだ。  
犬も実は、全く同じ。  
犬と赤ちゃんを一緒にすると叱られそうだが、両者とも言葉が話せないし、自らの意思を伝える手段が限られている。  
でも、よく見ると、身体中を使ってコミュニケーションとろうと、必死になっている。犬は尻尾だけでなく、顔にも表情が現れている。  
悲しい顔、嬉しい顔、甘える顔も怯える顔も、みんな違っているはずだ。  
そのシグナルを、何とかキャッチしようと懸命の努力を重ねると、本当に良く、分かってくるものである。

空気が読めない人の特徴としては、  
「私は人の顔色をうかがったりしないし、相手や状況によって態度を変えるのもイヤ」という強気なタイプと、  
その場では気づかず、「え？　なんで怒ってるの？」「どうして急に機嫌が悪くなったんだろう？」と相手を怒らせたことを後で知り、関係修復に慌てるタイプがあるようだ。  
前者を「自己チュウ」(自己中心的)と言っておこう。  
そして後者は、まぎれもない「疎い人」と言わせてもらう。

相手の気持ちを理解しよう...という友愛の念、  
相手にはまず自分から心を開いて接する...という優しさ、  
自分に合った役割をわかった上で、良い関係に貢献する...という献身さ、  
不快感を与えてはいけない...という労(いた)わり、  
こんなことが、彼らには明らかに、欠如しているのである。